

# JFEグループのTCFD開示対応

～機会とリスク、シナリオ分析～



2021年 3月 12日  
JFEスチール(株) 専門主監  
手塚宏之



# TCFD提言に沿った開示の取り組み

JFEホールディングスは、2019年5月27日、  
TCFD※最終報告書の趣旨に対する賛同を表明しました。



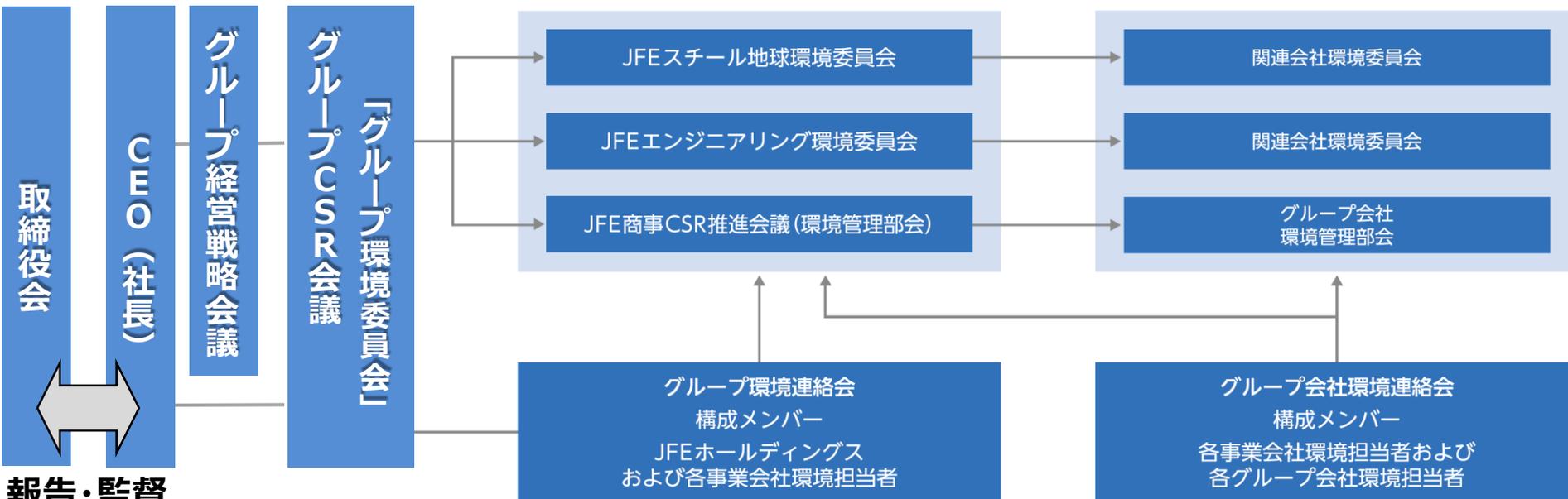
※ G20財務大臣および中央銀行総裁の意向を受け、金融安定理事会（FSB）が設置した「気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）」。

TCFDの提言に沿った分析・評価を通じ、JFEグループのガバナンスや事業戦略が、気候変動に関するリスク管理と機会獲得に適応していることを確認

## ガバナンス

- CSR重要課題として「地球温暖化防止」を特定し、円滑なPDCA・適切なマネジメントを推進
- 「グループ環境委員会」で対応方針を議論し、取り組みを監督・指導
- 重要課題はグループ経営戦略会議で審議、取締役会へ報告を実施し、活動を監督

## ■ JFEグループのCSR推進体制



# 戦略：シナリオ分析の概要

2つのシナリオ設定のもと、7つの重要要因を選定。**気候関連リスク・機会を評価し、将来の事業戦略策定に活用**

		2℃シナリオ	4℃シナリオ
参照シナリオ	移行	・国際エネルギー機関(IEA)による移行シナリオ → <b>持続可能な発展シナリオ(SDS)、2℃シナリオ(2DS)</b>	・国際エネルギー機関 IEAによる移行シナリオ → <b>新政策シナリオ(NPS)、参照技術シナリオ(RTS)</b>
	物理影響	・国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)による気候変動予測シナリオ → <b>代表的濃度経路シナリオ(RCP)</b>	
シナリオによる社会像		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>大胆な政策と技術革新により気温上昇を2℃未満に抑制</b></li> <li>➢ 脱炭素社会への<b>移行に伴う社会変化が事業に影響</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 各国政策が実施されるも<b>気温が4℃上昇</b></li> <li>➢ 温度上昇等の<b>気候変化が事業に影響</b></li> </ul>

		重要な要因	評価結果
2℃シナリオ	①鉄鋼プロセスの脱炭素化	機会	・既存技術に加えて革新技術を開発・実装
		リスク	・革新技術導入の投資負担は可能 ・公平なカーボンプライス導入によりコスト競争力維持
	②鉄スクラップ有効利用ニーズの高まり	機会	・スクラップ供給量に制約があり、転炉鋼生産は増加 ・電炉鋼生産、電炉エンジニアリングの拡大 スクラップ物流ビジネスが拡大
		機会	・EV化で電磁鋼板の需要増加 ・自動車販売台数の増加で特殊鋼需要増加 ・自動車用高張力鋼板の需要増加 鋼材のリサイクル性に再注目
	③自動車向け等の鋼材需要の変化	機会	・EV化で電磁鋼板の需要増加 ・自動車販売台数の増加で特殊鋼需要増加 ・自動車用高張力鋼板の需要増加 鋼材のリサイクル性に再注目
		リスク	・マルチマテリアル化の影響は限定的
④脱炭素を促進するソリューション需要の拡大	機会	・再エネプラントの一貫施工・運営 ・ごみ焼却炉、プラスチックリサイクルプラントの一貫施工・運営 ・CCU、CCS設備の一貫施工 低炭素ビジネスの海外展開	
4℃シナリオ	⑤原料調達不安定化	リスク	・具体的対策を推進中 [代替、分散調達]
	⑥拠点損害	リスク	・洪水、渇水対策などは既に実施中 ・海面上昇による浸水影響は対応可能レベル
	⑦国土強靱化	機会	・鋼材、関連製品でインフラ強化

## JFEグループの中長期ビジョン：CO<sub>2</sub>排出量削減目標

**鉄鋼事業において2030年度のCO<sub>2</sub>排出量を2013年度比で20%以上削減することを目指す**

2030年度  
に向けて

JFEスチール社長直轄プロジェクトチームを立ち上げ、様々な施策の検討を開始

日本鉄鋼連盟の低炭素社会実行計画には主体的に参画

社会全体の脱炭素技術インフラの整備が進むことに合わせて、  
**2050年以降のできるだけ早い時期に、  
JFEグループのカーボンニュートラルを実現**すべく取り組む

2050年に  
に向けて

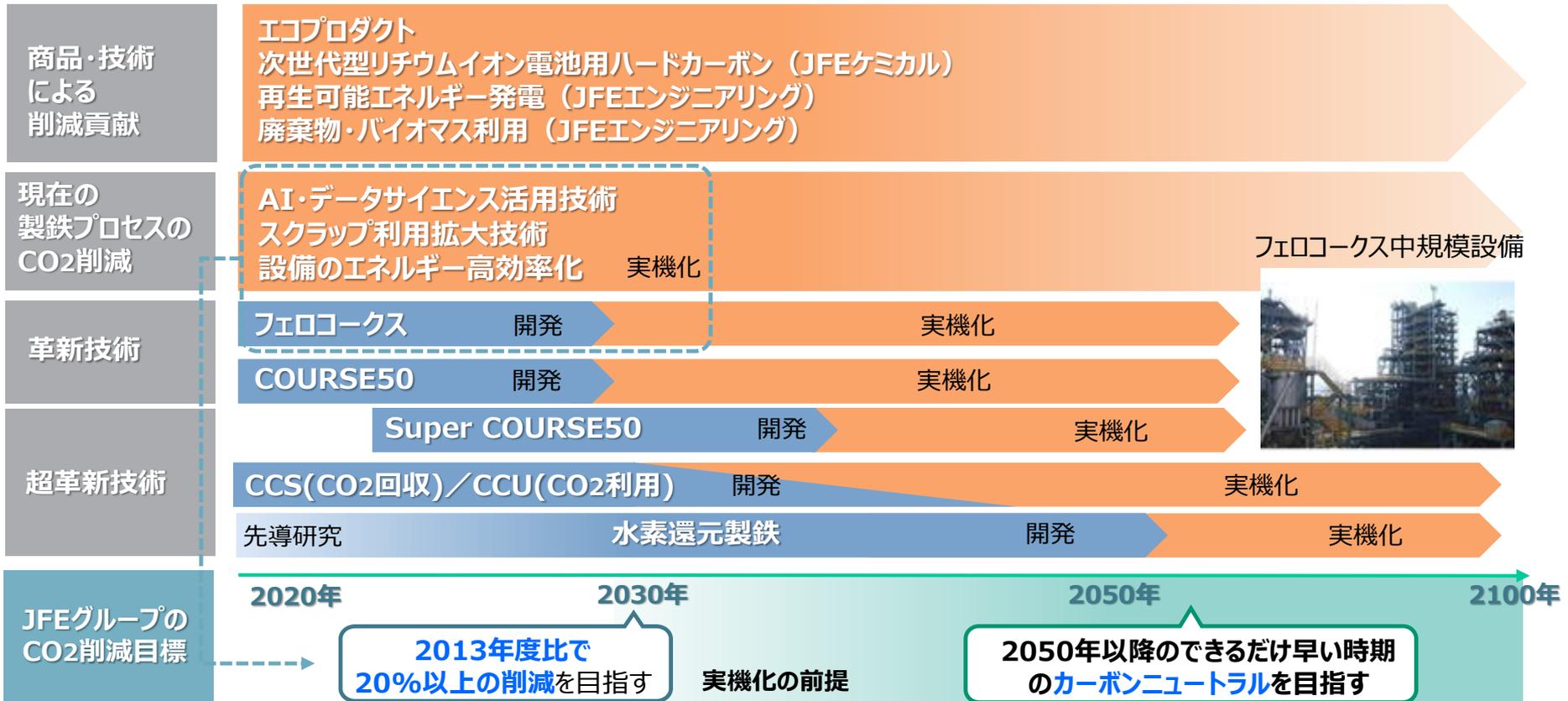
2050年までのできるだけ早い時期にカーボンニュートラルを実現する新技術の  
メニューの提示が可能となるよう研究開発を加速

# 指標と目標：カーボンニュートラル実現に向けて

## JFEグループのカーボンニュートラル実現に向けたCO<sub>2</sub>削減ロードマップ

**2030年に向けて：**現在の製鉄プロセスのCO<sub>2</sub>削減や、開発中のフェロコークス製造技術の適用拡大等により、20%以上の削減を目指す

**2050年に向けて：**安価で大量な水素供給等の社会インフラが整備されれば、速やかに実用化に繋がられるよう、様々な革新的技術の開発を推進



フェロコークス中規模設備



実機化の前提  
安価・大量水素の供給等の  
社会インフラ整備



**JFE**

Copyright © 2021 JFE Steel Corporation. All Rights Reserved.

---

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい